

# 「ヨーロッパのこども」を見て

笠原秀定



このたび海外視察の機会を与えられましたので欧米の幼児教育の現状を見て参りました。八月二十九日に羽田をたつて、北極まわりでデンマークを振り出しに、北欧三国を見てドイツ、スイスとだんだん南下して、イギリスからアメリカに渡り、欧米九か国を訪ねて、十一月三日に日本に帰って参りましたが、僅か六十七日間、二十六ほどの都市をまわり、いわば急行で走って来たような感じで、それぞれの国情を深く見て来たわけではなく、ほんの上つらしか見て来ておりません。しかし表面だけでも現実に自分の目で見て来たことは大へんうれいことであり、また大きな収穫であったと思っております。それに海外の事情を書いてあるものを見ましても実際に見て来ておきますと、いろいろ思い当ることがたくさんあり、ああそうなのだと感を深くすることが出来るようになりました。私の歩いて来た所は、いわば欧州の銀座通り

とも言うべき所でありましたが、六十七日間本当に楽しく、大した不自由もなく旅行出来たのはなぜだろうと、旅行中の事を思い出しては楽しい思い出にふけり、また自分の生活に反省もさせられております。

東京をたつて最初にデンマークに参りましたが、訪ねる者が誰しも感ずることだろうと思いますが、本当にきれいな国だなあと思いました。東京の雑どうの中で毎日を生活している私には特に感を深くしたのかもしれない。しかしこのことは、ヨーロッパの諸国を廻つて、どこに行つても感ずることあります。人口も少なく、国も豊かなためなのでしょう。どの国もすべてそうであると言には言えないかもしれませんが、街もきれいだし、公衆道徳もよく守られ、人の様子も落ちついて豊かな感じがいたしました。スエーデンでも、ノルウェーでも同じ感じで、本当に気

持よく何の不安もなく旅行が出来、日本に帰るまでたのしく旅行が出来ましたのも、最初のこうした印象があったためではないかしらと思っております。日本に帰って友人達から、ヨーロッパを廻って、どこの国が一番よかったかとよくたずねられるのですが、さてどこと言うことが出来ず返答に困るようなわけでありませう。どこの国に行っても青い芝生と、色とりどりのきれいな花は、先ず私達の目を驚かせます。道路もきれいで、極端な言い方をすればゴミ一つ落ちていないと言えるでしょう。タバコの吸いながらさえなかなか見当らないほどです。私も捨てる気にはなりませんでした。ドイツとスイスで汽車にも乗りましたが、車そのものは日本も決して劣っているとは思いませんでしたし、むしろ日本の方がきれいだと思いましたが、車の中はちよつと比較になりません。タバコをすえば必ず灰皿に入れますし、食べ物からは箱の中（車中に箱があります）に入れるか、自分の持っている袋に入れて決して車の中に捨てることはありません。ヨーロッパの汽車はタバコのすえる車とすえない車にわかれておりますが、すえない車に乗った者は、男でも女でも誰ひとりタバコをすう者はありません。勿論車中に灰皿も備えつけてありません。タバコをすってよい所にはどこでも必ず灰皿があります。ですから灰皿のない所ではタバコをすわないわけです。道路にゴミ一つ落ちていないということ、道路は物を捨てる所ではない、ということが身

についておるわけでしょう。また交通にしても、自動車の数も随分多いのですが、互にゆずり合っておりますので、日本のように人でも飛ばして走るような感じとはたいへん異なっております。草花にしても、公園は勿論のこと、道路にもたくさん植えてある国がありました。それに私の行った時はちよつど花ざかりで、バラやダリヤの花が咲きほこっておりますが、誰ひとりさわる者もなく、勿論手折る者はありません。皆で見えて楽しんでおります。また本当に自由な感じをうけました、と言うのは人に干渉されないのです。私も時には随分失敗したこともありましたが、それをあざ笑うような態度はうけたこともありませんでした。人のする事に対し物めずらしそうに見たり、干渉がましいことは少しもありません。しかしまた反面困っている時には実に親切に世話をしてくれます。私でさえ楽しく旅行が出来たのもこうした感じをうけておりましたためだろうと思っております。

従つてこうした社会に育てられていることも私たちは本当に幸せなことだろうと思つたわけです。

幼稚園もいくつか見学いたしました。こどもは本当に静かです、おちついておりました。何んておとなしいのかしらと自分の幼稚園と比較してちよつとびっくりいたしました。二才位から入園している園もたくさんありましたが実に静かでした。幼稚園では大体日本と同じように年令別に組の編成をしているのが大部分

でしたが見学した中にも地域別に編成し二才から五才までのこどもを混成して組を分けている所もありましたが一面意味のあることを感じさせられました。ちょっと考えると保育がやりにくいようにも考えられますが、小さいこどもは静かに別の遊びをしたり、

また一しよに遊んで互に助け助けられてこどもの世界をたのしんでおります。大きい者は小さいこをいたわり、小さい者は大きい者の指導をうけております。また遊びの態度にしましても依頼心は少なく、自分のことは自分で処理していく様子が感ぜられません。屋内から列んで屋外に出るような場合でも、早くきれいになり最後の者はちゃんとドアを閉めて出て行く態度などは何でもないことです。がよく身につけているので感心いたしました。わが国でおとなでさえ戸を開けてそのまま閉めないで行く者があることを考える時に、大分異なる感じがいたします。大体ヨーロッパの幼稚園では一組の園児数は二〇名から三〇名位ですので、先生の目も充分に行き届き本当に掌握しているという感じをうけました。それにこども各々の生活態度というものが家庭において一応シツケられているので幼稚園での生活も日本の幼稚園とは大分異なった感をうけます。これは家族制度と申しますか家族の生活形態がわが国とは異なっておりますので、そうした点からも生まれてくるものと思えます。夫婦とこどもだけの生活、しかも家庭本位の生活であり、他の干渉も気がねもない生活であります。こども

もには小さいうちに生活態度を身につけさせ、長ずるに従って自分に責任をもたせ自由の生活に入り、互に権利を尊重した生活から生まれてくるものではないかと思えます。

こどもの小さいうちのしつけはなかなか厳格で小さい時に、してよいことと悪いこと、他人に迷惑をかけない態度は身につけてしまふのでしょうか。日曜日には必ず家族で戸外に出かけますが、おとなもこどもも公のものを大切にすることとはよく身につけております。よちよち歩きの小さいこどもが芝生に入ったり花に手をふれたりした時には母親は決して見逃しておりません。小さい時に厳格な態度で身につけて、自分で判断出来るようになるにつれ干渉しないで自由に処理させることは、小さい時は甘やかせ、よいことも悪いことも自由にさせて、大きくなってからあしてはいけない、こうしてはいけないと言うわが国とは大分異なっているようです。殊に年寄りも同居しているわが国では母親の思う通りにはシツケられず、甘やかされて勝手きままに育てられてしまい、大きくなっては自分の生活というものが認められず絶えず他から干渉されているのではないのでしょうか。

日本の幼児教育の研究は決して外国に劣っているとは思いませんでした。幼稚園の施設にしてもよく考えられております。それはこどもの教育を学校、幼稚園などにまかせる気持の強いわが国では自然そうなるのですが、日本の幼稚園教育は決して外国

に劣ってはおりません。施設については国によって勿論異なっておりませんが、わが国のように設置基準はやかましくきめられていないようです。建物は比較的立派ですが、保育室の外に特に遊戯室のある所は余りありません。また、室内も楽器のあるのは一室位で他はありません。しかし室内の装飾はきれいで、花の植木鉢がたくさんおかれてきれいです。衛生室、手洗所、便所などはタイル張りで実に清潔の感がいたします。教具、遊具もわが国の幼稚園の方がたくさん揃えられていると思います。また運動場は大体において充分取ってありません。建物に比較して割合にせまく運動具も余りありません。もともと都市において広い運動場はなかなかとれません。運動具の少ないのはどの国も共通のようでした。しかも一部は芝生が植えられ花壇があつてことも達が思う存分走りまわるような所は私が見学した幼稚園にはありませんでした。保育の内容についてはわが国とも大して異なつた感はありませんでしたが大体が自由保育で殊に天気の良い時は戸外に出るとか園外保育をするなど健康保育には重点がおかれているようです。殊に北国は太陽の光に浴することが少ないので、太陽にあたることにとめております。ドイツでは街や公園などを歩いていたたびたび園外保育のこともに逢いましたが、二〇名位のことでも一名の先生がつれて出かけております。大体ヨーロッパの都市には公園が大へん多いので簡単につれだしております。細心に気

をつかつて指導しております。ちょうどハンブルグのアルスタ湖（都市の中心にある大きな湖でまわりが公園になっております。また汽船が通つて交通機関になっております）の公園を歩いておりました時ですが、急に雨にふられて汽船の待合室に雨やどりに入りますと、やはり園外保育で雨にふられた幼稚園児が二〇名ほど先生につれられて雨やどりをしておりました。他に客が六、七名おりましたが、その中で一角に子どもを集めていろいろな遊びをしておりました。まわりの客は皆ニコニコしながら見ておりましたが、先生は一生懸命に子どもを指導しておりました。私もその様子を写真にとつたりしておりましたが、なかなか上手に子どもを指導しているのには驚かされました。そして三〇分ほどして雨があがるとまたサツと引上げて出て行きました。その手ぎわは実にうまいものです。子ども先生の心の思うままに動き本当に楽しく遊んでおりました。またフランスで見た幼稚園では、やはり健康教育に重点をおいてはおりましたが自由保育と言うよりも教えこむと言つた感をうけました。教具なども豊富に備えております。しかし創造力を養うように努力しているということは言つておりました。どこを見てもなかなかかしつかりした先生です。施設々備も大事なことです。先生の教養の問題は更に重要なことであることを深く感じさせられた次第ですが、子どものシツケは小さい時ほど大切であると思ひます。

（明徳幼稚園長）